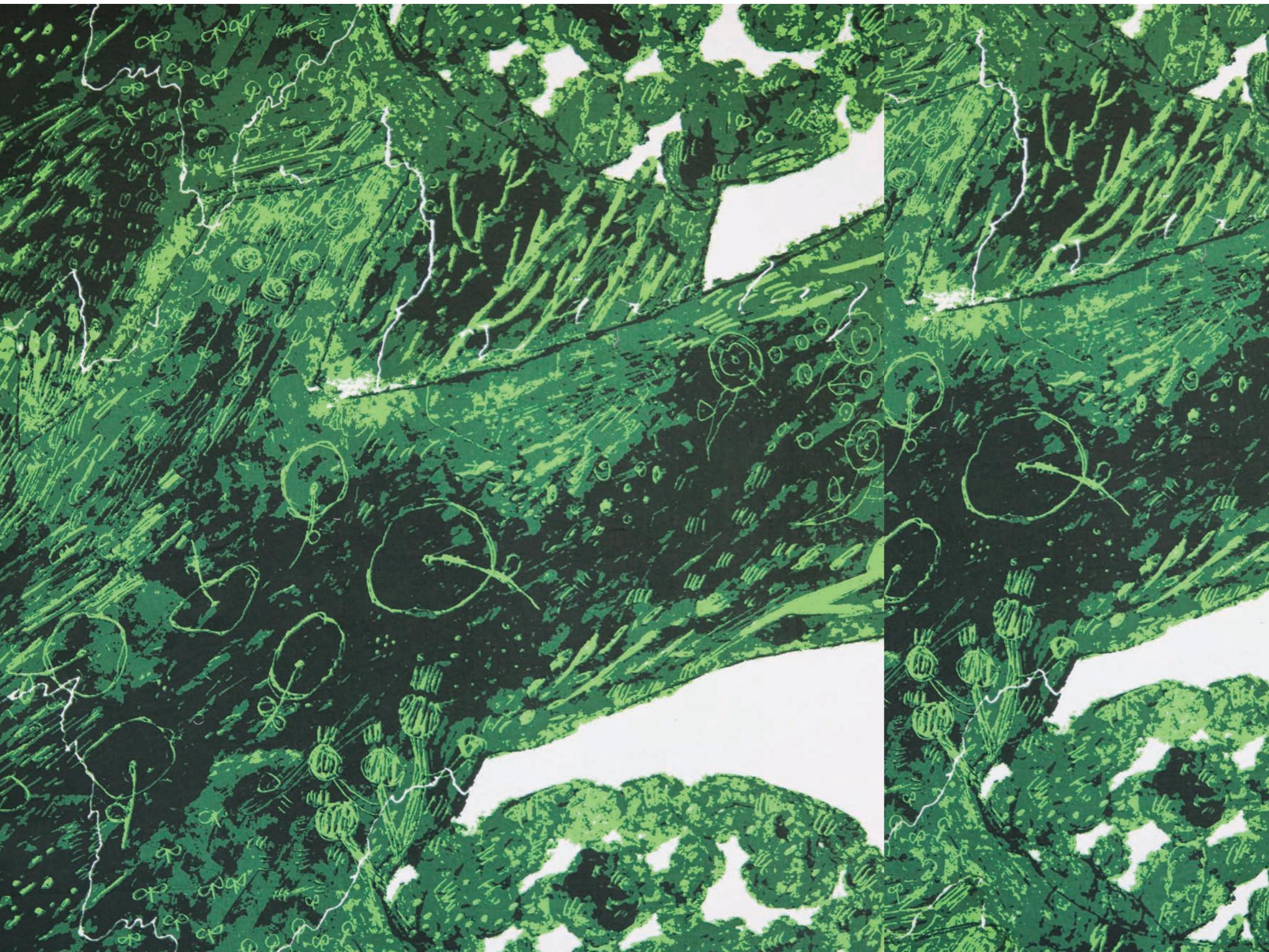


上野校地 〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8
取手校地 〒302-0001 茨城県取手市小文間 5000

東京藝術大学ウェブサイト www.geidai.ac.jp
お問合せ先: 03-5525-2075 (東京藝術大学学生支援課入試係)



COVER : 木下はるか / 卒業制作 [買上げ作品]

TITLE : あこがれ -Deep sea, Deep forest- SIZE : H5000×W3680 mm

K O G E I

TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS
DEPARTMENT OF CRAFTS

H30

東京藝術大学 美術学部 工芸科 平成 30 年度 学科案内

科長挨拶

東京藝術大学の前身である東京美術学校、東京音楽学校の創設当初に専修科美術工芸として、金工と漆工が設けられました。工芸科はこの専修科美術工芸を前身として、1975年（昭和50年）に現在の学部の体制である、彫金・鍛金・鋳金・漆芸・陶芸・染織の基礎及び専門課程となりました。その後、1995年に、木工芸、2005年にガラス造形の2研究室を大学院に加え、取手校地に展開しました。そして本年度から、漆芸と木工芸が統合し、漆芸（漆工・木工）に、陶芸とガラス造形が統合し、陶芸（陶・磁・ガラス造形）と新しい編成になりました。また本年度の入学生から工芸という分野を幅広く横断的に学べるよう、三年次には工芸総合演習という新しい授業を開講いたします。この授業は、専門分野の特化した素材、技法の違いによる垣根を越えた、幅広い工芸の理解と新たな発想を触発する事を狙いとしています。

工芸科は常により良い制作環境と指導内容を模索しつつ変化し、教育の充実を図っています。本学科の特徴でもある実材を使った実技教育は、各専門課程それぞれの素材感を重視した、高度な伝統技法の習得と、造形表現への展開力を養ってきました。また、自己の確立を目的に設定されたカリキュラムに沿って、最新の技術と情報を取り入れた少人数制の個人指導も、本学科の大きな特徴と言えるでしょう。さらに、海外の大学との交流授業や交換留学の国際交流の場を積極的に設け、国際的に活躍する人材の育成に努めています。また、地域連携にも力を入れ、工芸科の特色を活かした研究や社会活動に取り組んでいます。このように工芸科では、高度な専門性による創作を生かした自由な発想を重んじる教育活動を行なっています。来期の春には、広い視野を持ち、多くの希望を抱いた新たな才能に出会えることを教員一同楽しみにしております。

東京藝術大学美術学部 工芸科 科長 豊福 誠



01

アドミッションポリシー

本学部で学ぶ学生には、歴史の中で研鑽された技芸と知識を修得し、さらにその成果を革新し、発展させ、広く世界文化のために貢献する能力が求められます。こうした理念を踏まえ、真摯な姿勢で美術・工芸の世界に豊かな収穫をもたらす学生を広く求めています。

1. 自然に対する観察力を有し基礎的な造形能力（デッサン力・色彩感覚・立体造形感覚）のある人
2. 工芸素材に関心があり、工芸及び美術作品やデザインに興味のある人
3. 手仕事による制作に興味があり、専門家（作家、起業家、デザイナー）を目指している人
4. 伝統と現代双方に関心を持ち、物事を客観的に捉えられる人
5. 工芸教育に理解を持ち、社会や地域に貢献することに意欲のある人
6. 日本の文化や他国の文化に関心があり、グローバルな視野を求める人

※全てを網羅した人材でなくてはならないということではありません。



02

入試について

◇ 問題文は本学ウェブサイト 入試情報<<http://admissions.geidai.ac.jp>>からご覧頂けます。

工芸科学部入学試験は、第1次試験の鉛筆写生、第2次試験の平面表現、立体表現、大学入試センター試験、出身校の調査書から総合的に考慮し、判定します。

鉛筆写生

写生は創作活動を支える造形の源になるため、工芸科では高い水準のデッサン力を有した人材を求めていきます。写生を受験科目の一つとして捉えてしまう人も少なくありませんが、観察から得られた発見や感覚は、独自のセンスを磨くことに繋がります。

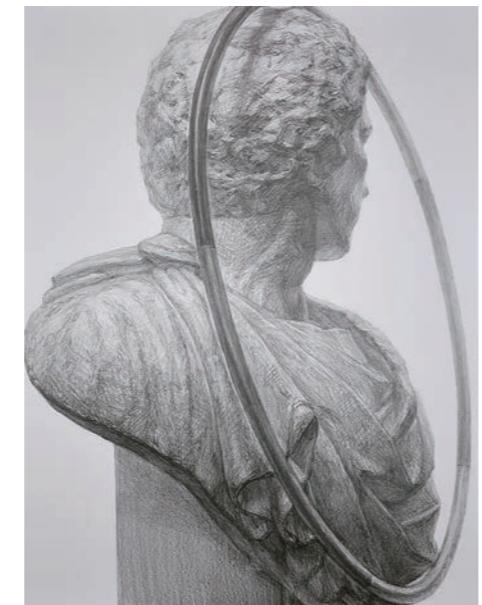
平面表現

色彩は自然・人工物を問わず私たちの身辺にあふれています。それらから得た色彩感覚を制作に生かすことで、質の高い作品を制作することが可能となります。工芸科では、このような能力を有した人材を求めていきます。

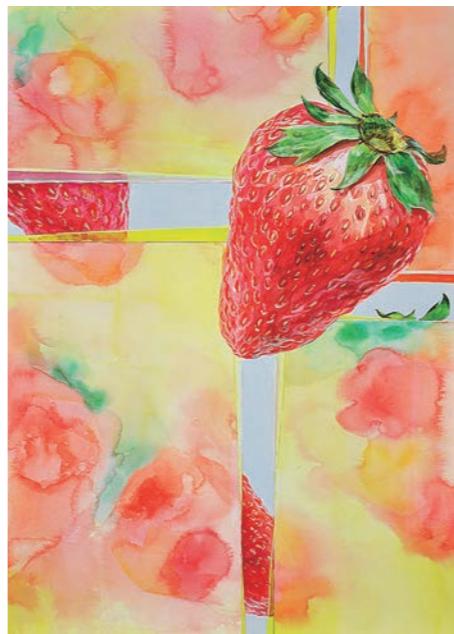
立体表現

立体表現で求められるものは、豊かな造形力です。主に水粘土を用いて出題していますが、紙や金属板を用いた構成問題も過去に出題されています。受験科目だけのエキスパートになるのではなく、様々な場面において、力を発揮する柔軟な学生を求めていきます。

平成30年度
合格者作品



〔平面表現〕



〔立体表現〕



カリキュラム

工芸科は、工房制作を中心とした少人数による個人指導が特徴です。

1年次は工芸科各分野の専門技法の体験や、絵画や塑造など美術全般にわたる基礎的な表現力、造形感覚を養い、2年次から、6つの分野に分かれ、専門的な造形表現を習得していきます。3年次には、領域を跨いだ工芸総合演習を計画しており、歴史ある分野を多く併設している本学ならではの、複合的な学生の育成を目指します。4年次には、半年から1年をかけて卒業制作を行い、4年間の成果を広く発表します。多くの学生は大学院に進学し、そこで各自の専門性をさらに高め、社会に出ていきます。

平成30年度より、陶芸は「陶芸(陶・磁・ガラス造形)」に、漆芸は「漆芸(漆工・木工)」に改変し、さらに多様性のある授業体系に移行しました。

1年	2年	3年	4年	大学院 1年	大学院 2年
[工芸基礎] 基礎造形実習 実材実習 [彫金・鍛金・漆芸(漆工・木工) 陶芸(陶・磁・ガラス造形)・染織] より3分野を選択 塑造実習 絵画実習(毛筆・扇面) 絵画実習(素描)	彫金 基礎技法 接合 象嵌 箔(各種色金)	鍛金 道具整備 基本回転絞り 花器制作 機械工作演習 変形絞り	古美術研究旅行 工芸総合演習 装身具制作 打ち出し 研究制作	各種技法研究 研究制作 卒業制作	彫金技法研究 精密鋳造実習 溶接実習 彫金制作法
	鍛金 道具制作 生型铸造 真土込型铸造 I	鎌金 道具制作 石膏铸造 精密铸造	木目金実習 接合実習 研究制作 卒業制作	鍛金技法研究 精密铸造実習 鎌金制作法	鍛金技法研究 七宝演習 取手金工機械室実習 鎌金制作法
	(漆工・木工) 漆芸 道具制作 手板制作 工程手板制作 蒔絵 螺鈿、卵殻、平文 木工基礎実技	(陶・磁・ガラス造形) 陶芸 粘土づくり ロクロ口成形 窯炉焼成 登り窯焼成(隔年) ホットワーク	真土込型铸造 II 蒔絵 変わり塗り 乾漆造形実習 木工造形実習 研究制作 卒業制作	真土込型铸造 口クロ口成形 ネジ鉢込み成形 制作実験 ホットワーク キルンワーク コールドワーク 研究制作 卒業制作	鎌金技法研究 精密铸造(減圧铸造) 鎌金技法研究(セラミック铸造) 鎌金制作法 研究制作
	染織 色見本制作 ろうけつ染 紙型 型染 紋り染 撥染 基本織り組織 緋織	染織 友禅染 二重織 緋織 フェルト 繊維造形	創作研究 卒業制作	漆造形技法研究 漆装飾技法研究 古典研究 漆芸歴史研究	漆造形技法研究 漆装飾技法研究 木工造形研究 漆芸歴史研究
				陶磁技法研究 窯炉制作実習 研究制作 登り窯焼成	陶磁技法研究 ホットワーク キルンワーク コールドワーク
				染技法研究 I、II 織技法研究 I、II	染技法研究 III、IV 織技法研究 III、IV 修了制作

平成30年度 工芸科教員

〔彫金〕		〔陶芸(陶・磁・ガラス造形)〕	
准 教 授	前田 宏智	教 授	豊福 誠
准 教 授	岩田 広己	教 授	藤原 信幸
非常勤講師	草野 晃・佐々木 史恵	准 教 授	三上 亮
教育研究助手	古賀 真弥・水谷 奈央	非常勤講師	高岡 太郎・茂田 真史
		教 授	多田 えり佳・奥田 康夫
		教育研究助手	佐々木 誉斗・前沢 幸恵
			地村 洋平
〔鍛金〕		〔漆芸(漆工・木工)〕	
教 授	篠原 行雄	教 授	小椋 範彦
准 教 授	丸山 智巳	准 教 授	青木 宏憧
非常勤講師	岩崎 裕純・志村 和彦	講 師	菌部 秀徳
	宮崎 瑞士	非常勤講師	松崎 森平・小田 伊織
教育研究助手	塙見 亮介・今関 舞香	教 授	中内 安紀徳
		教育研究助手	田中館 亜美・川ノ上 拓馬
〔鍛金〕		〔工芸基礎〕	
教 授	赤沼 潔	教 授	上原 利丸
准 教 授	谷岡 靖則	助 教	橋本 圭也
非常勤講師	南 時俊・松渕 龍雄	非常勤講師	樋口 拓
教育研究助手	久野 彩子・青木 亨平	教 授	出居 麻美・桂川 美帆
		教育研究助手	海老塚 季史・閔水 美穂

制作風景



*本カリキュラムは、改定になる可能性があります。

工芸科の学内行事

本学では、研究の一環としての古美術研修旅行をはじめ、様々な行事やイベントを授業外で行います。東京藝術大学工芸科の歴史として受け継がれている行事に参加し、学生主体で一つのイベントを成し遂げ、国際的な視野を広げる経験は、通常の授業では得られない貴重な機会であり、勉強の場です。

藝祭

藝大の1年生は神輿と法被を作り、上野公園を練り歩きます。
夏休みの間、寝る間も惜しんで制作した作品は、学生が手がけたとは思えない迫力とクオリティーです。



古美術研究旅行

学部3年生の4月に2週間、奈良と京都の神社仏閣等を見学します。
藝大生でなければ、見ることの難しい文化財もあり、貴重な機会となります。



新入生歓迎会

工芸科に入学して最初の試験が、この新歓です。
ここで先輩方に度胸を示してはじめて、工芸科の仲間になるのです！



スポーツ大会

工芸科全体で行う前期の大きなイベントです。
留学生も含め工芸科の学生が一堂に集まり親睦を深めます。各分野の威信をかけた戦いに、学生達は勿論、教員達も大いに盛り上がりります。



研究旅行

各研究室で企画する旅行です。
分野ごとに訪問先を選び、研究分野への理解を深め、制作に活かします。



各分野ごとの祭

工房の安全を祈願するお祭りです。工芸科にとって、道具や工房は最も大切なものです。これらのお祭りは毎年欠かすことの出来ないものです。



国際交流

海外よりキュレーターや、美術大学の教授を招請し、作品の講評をしていただく機会を設けています。国際的な視野を広げ、世界に通用するアーティストを目指します。



卒業・修了作品展

学部4年間、大学院2年間の研究の成果を「東京都美術館」「東京藝術大学大学美術館」等に展示し、多くの方に見ていただきます。学生にとっては、人生の節目ともなる大切な舞台です。



専門分野紹介

彫金

たがね
彫を操り生み出される繊細な世界

彫金は、主に金鎚と鑿(たがね)を使用して、金属を彫る、立体的に打ち出す、他の金属をはめ込み象嵌(ぞうがん)をするなど、様々な加工技術を基礎として学びます。金属の切削性や可塑性を生かし、金属同士をつなぎ合わせて器やオブジェ、ジュエリーなどの作品が制作されています。また本学の取手校地には金工工房表面処理室があり、七宝焼きについてもカリキュラムを設けて学んでいます。

素材には銅・真鍮(黄銅)・錫・鉄・ステンレス・アルミニウム・チタニウムなどや金・銀・プラチナ・などの貴金属、伝統的な日本の合金である赤銅・四分一などがあります。カリキュラムの進行とともに技術や素材の体験を重ねて、感性や表現力を高め、学生それぞれの研究テーマによって制作研究が進められます。たえず生活空間全体を意識し、現状における表現方法の在り方を探求して新しい個性を築き、世界に発信しています。



彫金で最も基本的な歴史も古い「毛彫り」鑿を金鎚で打って地金に模様を切削してゆきます。その他、丸毛彫り・片切り彫り・蹴り彫りなどがあります。



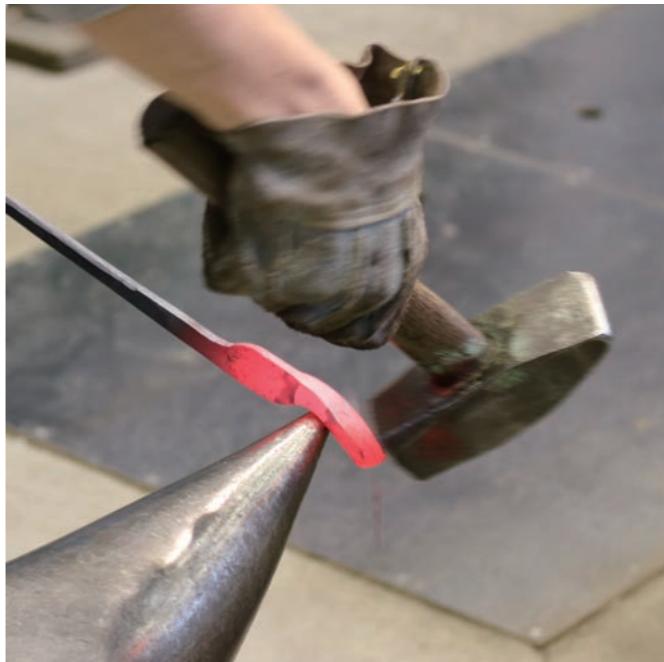
金属の可塑性を利用したパーツを組み合わせたブローチです。

鍛金

金鎚を用いて多彩な造形を作り出す

鍛金では、銅板などをはじめとする様々な非鉄金属を金鎚で叩いて加工する「絞り」と、鉄の棒材などをバーナーや炉で赤くなるまで温め金鎚で叩いて加工する「鍛造」の2つの技法を軸にした、伝統技法及び機械加工や各種接合技術を含む現代的な金属加工技術を用い、多岐にわたる作品制作を行っています。

カリキュラムとしては、基本手絞り実習(回転体)、1枚変形絞り(動物制作)、鍛造実習、接合実習(木目金制作、蝶付け等)があります。これらの基本的な技法に加え、各種溶接技術、機械加工技術を習得することで、金属造形の基本的な知識と、総合的な表現力を養い、より幅広い創作力の向上を図っています。卒業後は主に現代美術家、伝統工芸作家として独立し活動をしている者や、建築・空間関係、各種デザイナー、教育者、研究者として専門知識を生かした職に就く者など、様々な方面で活躍しています。



赤めた鉄の棒材を金鎚で叩いたり曲げたりし加工する鍛造。



2年次の課題である1枚変形絞り。1枚の銅板を金鎚と当金を用い絞り技法で動物を制作する。

卒業後の進路

自在置物作家

H20年修了 満田 晴穂



私は現代美術ギャラリーレントゲンヴェルケ所属の美術作家で、主にギャラリー・百貨店・アートフェアなど国内外問わず発表しています。在学中に明治の金属工芸「自在置物」と師匠に出会い、その技術を用いて工芸的もしくは現代美術的に制作表現をしています。自在置物とは江戸末期から明治にかけて甲冑職人達が生み出した金属製の工芸品で、主に甲殻類・昆虫・魚・鳥・蛇などの生き物や、龍・鳳凰などの幻獣をモチーフに金属で写実的に作り、更に可動式に作る事によって生き物の姿形だけでなく動きまで再現した置物です。ただただモノ作りをしたい、作家になりたいという欲求だけで藝大受験をしましたが、大学では先生方や先輩・学友にも恵まれ、高度な技術を習得するだけでなく考え方やモノを観察する事の本質のようなものを学んだと思います。

卒業後の進路

カーマイン株式会社 / 代表取締役/デザイナー

H14・H12年修了 左：中村 美香（代表取締役/デザイナー） 右：沖 高麗子（デザイナー）



私達は、鍛金の学生時代の仲間で会社を立ち上げ、carmine (カーマイン)という名前で活動しています。東京の地場産業である皮革産業と出会い、革工場と協力して、革からオリジナルで開発したMADE IN TOKYOのプロダクトをデザイン・制作し、NYのセレクトショップや美術館、パリのデパートなどでも販売しています。大学で学んだ、作品やものづくりに対する姿勢は、今の自分たちの強みになっているのではないかでしょうか？そして何よりも、そこには最高な人たちとの出会いがあり、今に繋がっているんだと思います。carmine も最初は中村と沖の2人でしたが、鍛金出身の松岡も加わり、共感できる仲間が次々と増えました。学生時代も楽しく制作していましたが、これからもずっと同じように楽しく作って行きます！台東区に新店舗として、ファクトリーショップをオープン予定。是非ショッピングに遊びに来てください！！

専門分野紹介

鋳金

金属を瞬間的に自分のカタチに！

鋳金では、粘土や石膏、蠟などで作成した原形を型取って、型（鋳型）に熔けた金属を流し込んで鋳物を作り、それを様々な方法で仕上げ、作品を完成させます。固い金属を、思い通りの形に成形する事ができ、創造的でとても魅力的な技法です。また、指輪などのジュエリー、茶の湯釜や鉄瓶などの器物、大仏やモニュメントなどの野外彫刻、自動車のエンジンのような工業製品など、技術の使用は多岐にわたっています。本校は、日本古来より受け継がれている伝統技法を始め、最新の技法まで多種の鋳造技法を学ぶ事が出来る世界にもあまり類を見ない工房設備を擁しています。授業では素材・技法・造形への理解と洞察を深め、創作技術と感性を磨く事で、総合的な高い創造力を身につけて行きます。卒業生は、造形作家、デザイナー、教育者として、また、修士、博士課程への進学や海外留学などを通して、その力を発揮しています。



ブロンズ作品の仕上げ加工。

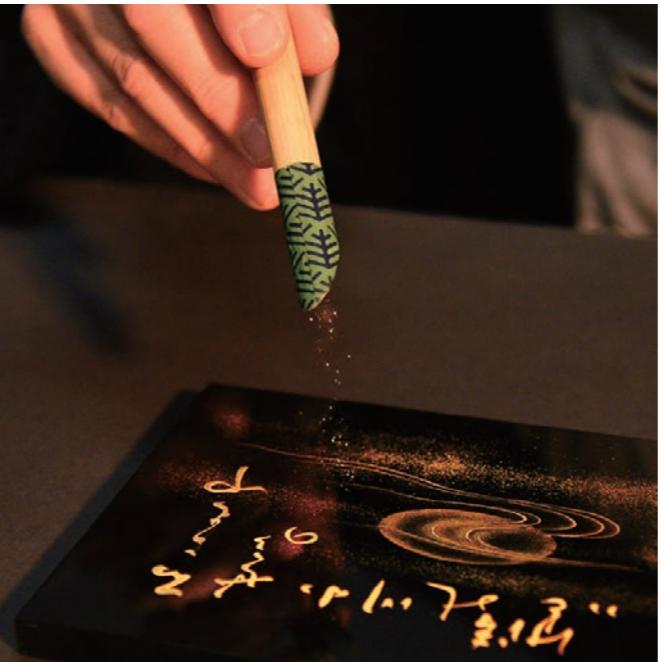


熔けた金属を、鋳型に鋳込む瞬間。(石膏埋没鋳造法)

漆芸 [漆工]

伝統に育まれた自由な立体造形

漆芸はウルシの木から採取した樹液を用いた芸術です。その歴史は古く、縄文時代から漆は塗料や接着剤の用途で使用され、アジア独自の素材表現として広く知られています。東京藝術大学の漆芸教育は基本的な塗りの工程(下地、研ぎ、塗り、磨き)から素地制作(乾漆、木工)、装飾技法(蒔絵、螺鈿、平文、卵殻、沈金、変わり塗りなど)まで一貫した授業を行っています。また漆に関する外部専門家による集中講義、歴史研究、漆芸ギャラリーでの企画展示、国際交流などを行い、幅広い視野を持った学生を育成するとともに、学生の自主性と社会への発信力を培っていきます。自己の世界観を探求し、多様な漆芸表現を創作研究することで豊かな感性を育て、社会で活躍できる人材を育てます。卒業後は大学院へ進学し、研究をさらに深める学生も多く、そこから作家・教育者・研究者・デザイナーなどとして国内外で活躍しています。



伝統的な装飾技法である蒔絵をはじめ、様々な技法を基礎から学びます。

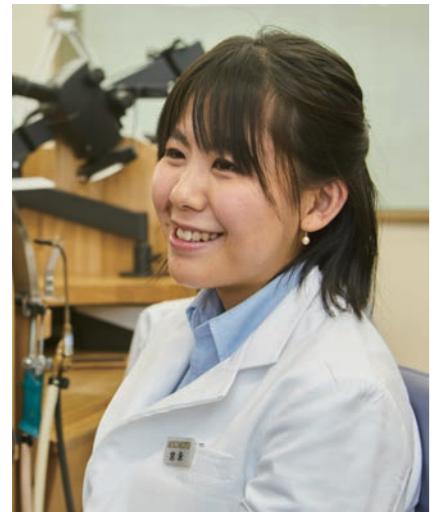


最終的な艶上げ作業。完成まであと少し。

卒業後の進路

株式会社 ミキモト装身具 / ジュエリー制作職

H25年修了 宮永友里恵



クラフトマンとして働きはじめて4年が経ちました。普段は鋳造品の細工、磨き、石留めなどを行っています。学生の時と今で共通しているのは、道具作りです。デザイン画から実際に商品にするには、造形力や技術が必要なのは勿論ですが、自分の手先となる道具がとても大事です。工芸科に入ると必ず道具作りを教わります。作って終わりではなく、使いながら手を加え、自分の道具になっていきます。大学は、自分の思い描いたものを形にする為の様々な力を付けられる良い環境です。道具作りや技法以外にも、重量の大きいものを扱う鋳金は特に共同作業が多く、研究室全体をみてスケジュールを組んだり、学内で済まないものは外注することもあります。自由にアイデアを練る時と、冷静に制作の段取りを組む時の気持ちの切り替えなど、考え方への影響もありました。思い通りのものを作るにはとてもエネルギーが要ります。どこへ行っても発揮できる底力が、ここでついた気がします。

卒業後の進路

(株)本田技術研究所 / クレイモーデラー

H27年修了 加藤朝人



私は(株)本田技術研究所という会社で、バイクのクレイモーデラーをしています。工芸の世界は窮屈で古いイメージがあるかもしれません、むしろ素材と技法の縛りがあって出てくる、新しく自由な発想こそが工芸の醍醐味だと思います。なにより、大学生という若い時代にひとつの素材について考え続けるという経験こそが最も尊いものかもしれません。現在は漆を塗ることも蒔絵をすることもなく、全く違うことを職業としましたが、工芸科で学んだ素材の魅力を感じる眼や心、作品を作る上で人への伝え方、考え方など、多くのことが活かされています。何かを感じ、ものづくりを仕事として続けていく上で根底にある、一番大切な部分は同じであることに大きな可能性を実感しています。その経験を信じ、自分の将来を切り拓いていきたいと考えています。

専門分野紹介

陶芸〔陶・磁〕 土と炎との対話から生まれる造形

東京藝術大学の陶芸は発足当時より、伝統工芸、日本の食文化における器、芸術作品としての陶芸など、多様な価値観を踏まえた教育を開きました。現在は、工芸的感性や用の美の考え方のみならず、造形性を重視した教育を行っています。学生自身の柔軟な発想力を活かしながらも、実技の積み重ねによって、創造性に溢れ、広い視野を持った、第一線で活躍できる人材の育成を目指しています。技術面では、ろくろ成形、窯窓実習、多様な窯の焼成実践、釉薬の調合、デザインを主とした石膏型による成形など、多岐にわたる陶芸の基礎的な技術を広く学ぶことができます。独自の発展を遂げた日本の陶芸は、世界から益々注目されています。その伝統を礎として海外との交流にも力を入れています。また、現在活躍されている陶芸作家などを招いての実演や講義、意見交換などを行い、次世代の陶芸の可能性を探っています。



素焼き焼成後、下絵具による絵付けを施す。



ろくろ成形の実演。粘土の塊を一気に大壺の形にひきあげる。

染織 新しい感性が、今を染める、今を織る

染織では、伝統と現代の融合・発展を教育理念に、工芸においてアートとデザインの双方を兼ね備えた人材育成を行っています。カリキュラムの特色は、染分野と織分野の多様な技法をバランス良く編成し、基礎と専門の段階的教育によって技術・表現と知識・理論の専門能力を身につけることができます。各自の個性を生かしながら、染織表現における多角的視野と多様性を学び、将来の方向性を見出していくいます。

社会で幅広く貢献できるようプレゼン能力を身につけ、次世代の染織作家や教育者、テキスタイル・ファッショ・空間演出などのデザイナー、起業家として独自のブランド展開をしていく人材と、グローバル化に対応できる人材を輩出します。



蠟で防染し、刷毛で1色ずつ模様を染め出していく、日本伝統の染色技法「ろうけつ染」を学び、現代的な表現を試みます。

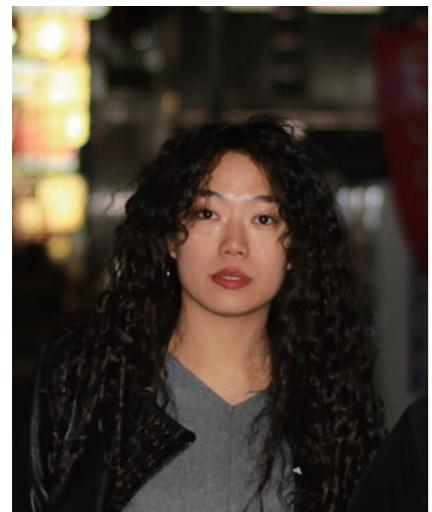


糸を染め、紡ぎ、様々な繊維素材に触れ、独自の表現で織り進めます。織技法では、特有のテクスチャーを生かした多彩な造形表現が可能です。

卒業後の進路

キュレーター

H20年 陶芸卒業 / H23年 美術教育修了 高須 咲恵



私はモノを作ることが大好きで芸大の陶芸科にはいました。陶芸に入ってからは、それと同じくらい「どう生きるか」ということに興味を持ち、卒業後は制作の他に、SIDE COREというストリートアートの展覧会を企画したり、被災地石巻市で開催された芸術祭のアシスタントキュレーターをしています。私にとって生活と制作に境はなく、生きること自体が表現の実験です。色々なことが激変する時代ですが、その中で常に自分たちの自由を探し続けることができるよう心がけています。陶芸科は、自分自身に深く目を向けられる学科ですし、制作の時に、一人で制作したり、大勢で窯を焚いたり、ご飯をたべたりできるとてもユニークな科だとおもいます。この経験は現在の活動の基礎になっています。

2017年石巻市で開催されたReborn-Art FestivalでのSIDE COREの作品
「Rode work」EVERYDAY HOLIDAY SQUAD
写真提供:Reborn-Art Festival 2017 撮影:後藤秀二

卒業後の進路

株式会社DNP / 生活空間デザイン職

H30年修了 杉浦 光咲



就職活動をしている際「手を動かしてモノづくりができる仕事」ということを軸にしていました。私はフェルトという素材を用いて制作を重ねていたのですが、フェルトでの制作はとてもアナログで、機械での代替ができません。手を動かす楽しさ、それによって実際にモノが形になる喜びや達成感を社会にならってからも感じたいと思っていました。

私が勤めている会社はインテリア系の壁紙や床材、自動車の内装材などのデザインをしているのですが、パソコン画面上でのデザインで終わることはなくデザイナー自らが材木場や工場に足を運び手を動かして加工や着色、撮影を行いながら製品を作り上げていきます。そうした手や足を動かし一つのモノを作り上げていく工程や楽しさはまさに学生時代の制作と通づるものがあり、経験が活かされています。

専門分野紹介

漆芸〔木工〕 研ぎあげた刃物で多様な造形を組み上げる

木工は世界の歴史の中で極めて多様な姿と役割を担ってきました。建造物や造船、道具、家具、室内装飾などがあります。その中で日本における木工の歴史に注目すると、その考え方や技法ならびに使用する道具の発展に独自性と洗練が見て取れます。芸大の木工のカリキュラムでは、木を組むを中心とした据え、作品における造形の在り方や成立させる背景について研究します。またそれらを支える各木工技法を学びます。木取りや墨付けなどの手順から、手道具の仕立てや使い方、各技法（指物、挽き物、削り物、彫り物、曲げ木、木象嵌）ならびに機械による加工などを総合的に学びます。

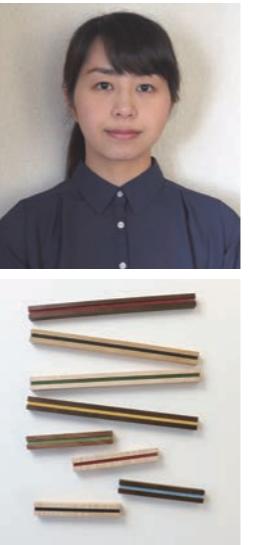
卒業修了後は木工に従事する者、美術家、起業する者、企業の家具デザイン部門や企画部門への就職、教育者や研究者、学芸員など、様々な方面で活動しています。



卒業後の進路

東北生活文化大学家政学部生活美術学科 / 講師
H18年 木工芸 修了 落合 里麻

修士課程の2年間を木工芸研究室で学ぶことができて良かったと、今でも実感しています。入学式の翌日から一日中刃物を研ぎ、木の加工技術や造形表現を身につけるだけでなく、道具の制作まで習得できる教育機関は他に聞いたことがありません。ひたすら木と向き合った経験は、卒業後の仕事にも大変活かされています。修了後の数年間は家具メーカーに勤務し、現在は美術系の大学で教育と研究の仕事に就いています。研究の分野では作品制作に限らず、江戸時代に作られた駕籠（かご）を題材に、木部の構造分析等を行っています。現地調査や実測図の作成を行い、最終的には研究成果を文章にまとめて発表することが多いのですが、木工芸研究室で手を動かして学んだことが現在の研究の基礎となっています。



陶芸〔ガラス造形〕 変幻自在なガラスの可能性を追求する

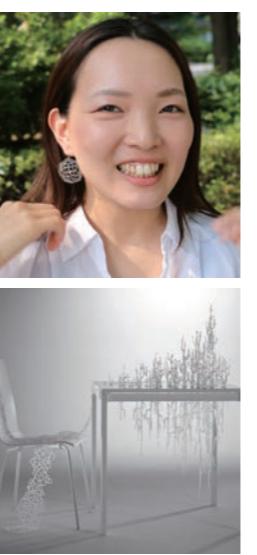
ガラスの技法は大きく分けると、「吹きガラスを代表とするホットワーク」、「電気炉を使って制作するキルンワーク」、「切り子などを加工するコールドワーク」の3種類の技法があり、本研究室では、これら全ての技法を学ぶことができます。また、取手校地内に隣接する、共通工房を活かした創作活動も魅力のひとつで、金属・石材・木材など複合素材を用いた表現の可能性について探る機会も設けています。国内外の作家を招いた授業を行い、実践的で広い視野をもった授業を行っています。学生間でのディスカッションや、教員と頻繁に行うチュートリアルを通して、制作するだけではなく、「考える力」「表現する力」を合わせて養い、総合力の高いガラス造形作家を養成することを目指しています。卒業後は、個人工房やブランドを立ち上げて、作家活動をする他に、ガラスマーカーや工房、教育期間に就職をしています。



卒業後の進路

カガミクリスタル株式会社 / デザイナー
H24年 ガラス造形 修了 川島 理恵

ガラス造形研究室は、他校や他学科の生徒が多く集まります。そのため考え方や作品が多種多様で、共に刺激し高め合いながら学ぶことができました。私はデザイン学部出身ということもあり、使用者にとって機能的であることを考えた制作をしていました。しかし先生には幾度となく「自分の殻を破れ」と言われ、単なる技法指導だけでなく、考え方や人となりを大切にし、指導していただきました。そのおかげで一年間かけた修了制作でそれまでの常識や価値観を超えたものを作り出すことが出来ました。卒業後はガラスの食器メーカーに就職し、ガラス造形研究室で学んだ様々な技法と考え方を生かし、グラスや花瓶といった生活に携わるガラスのデザインをしています。



進路について

過去10年間の工芸科卒業生の就職先を調査した結果、様々な企業や工房、教育機関で活躍しています。また、自ら起業するものも少なくありません。就職活動を行わなかった学生は、大学院進学や作家など、それぞれの夢に向かって活動を始めています。工房を構えたり、ブランドを立ち上げたり、百貨店やギャラリー、アートフェアなどで作品を発表したり、大きな賞を受賞する卒業生もいます。

工芸科は、卒業してからも先生や先輩など、たくさんの人との繋がりが強く、就職した学生もそうでない学生も関係なく、互いに刺激しあい、良い影響を受けることが出来ます。

主な就職先一覧

製造・ブランド	教育機関	学校法人麻布学園
株式会社ミキモト 装身具 minā perhonen 株式会社本保 村瀬治兵衛工房 有限会社モメンタムファクトリー・Orii 株式会社モンベル 株式会社ディーエイチシー ユニペール株式会社 吉田テクノワークス株式会社 株式会社良品計画 株式会社ヨーガンレール 株式会社BRUNCH UHA味覚糖株式会社 株式会社大倉陶園 沖縄県読谷山焼北窯 小津産業株式会社 カガミクリスタル株式会社 株式会社柏圭 株式会社カッシーナ・イクシード 株式会社川島織物セルコン 株式会社くるり 株式会社ケイ・ウノ 小泉ライフテックス株式会社 コクヨ株式会社 小松精練株式会社 株式会社coly 株式会社サザビーリング 株式会社サンゲツ 株式会社三八染工場 株式会社鈴峯 株式会社シャルマン シチズン宝飾株式会社 株式会社スタージュエリー 株式会社スペース スリーエム ジャパン株式会社 セーレン 株式会社 有限会社ソラ 高橋理也株式会社 鍛造指輪株式会社 株式会社土屋鞆製造所 株式会社天童木工 東洋佐々木硝子株式会社 NORITAKA TATEHANA 日産自動車株式会社 西川産業株式会社 日本アニメーション株式会社 ニッポンシリップ株式会社 株式会社俄 任天堂株式会社 株式会社笛一 株式会社バルコス 株式会社平林七宝 本田技研工業株式会社 株式会社マイティデザインワークス 株式会社マープルショッド マルミツ陶器合資会社 ミカレディ株式会社 株式会社ミキモト	【大学】 青山学院大学 工学部 会津大学短期大学部 秋田公立美術大学 宇都宮大学 桜美林大学 沖縄県立芸術大学 金沢美術工芸大学 九州産業大学 京都精華大学 神戸芸術工科大学 女子美術大学付属高等学校・中学校 聖ヨゼフ学園中学・高等学校 学校法人玉川学園 千葉県立高等学校 千葉県立泉高等学校 千葉県立流山中央高等学校 千葉県立幕張総合高等学校 千葉県立八千代東高等学校 東京学館船橋高等学校 東京都立有徳高等学校 東京都立高等學校 東京都立工芸高等学校 成田高等学校 日々輝学園高等学校 三鷹市私立明星学園中学校 【カルチャーセンター等】 池袋コミュニティーカレッジ うずまこ陶芸教室 大阪クラフトパーク 白金陶芸教室 スタジオサガミ 祖師谷陶房 千葉陶芸工房 laboratres 東京陶芸クラブ 陶芸教室Futaba 横浜美術館(陶芸講師) do陶芸館	学校法人鎌形学園東京学館船橋高等学校 茨城県公立高等学校 香川県公立高等学校 社会福祉法人葛飾学園 茨城県立取手松陽高等学校 神奈川県公立高等学校 神奈川県私立高等学校 吉祥女子中学高等学校 慶應義塾中等部 埼玉県立進修館高等学校 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学校 昭和第一学園高等学校 女子美術大学付属高等学校・中学校 聖ヨゼフ学園中学・高等学校 学校法人玉川学園 千葉県立高等学校 千葉県立泉高等学校 千葉県立流山中央高等学校 千葉県立幕張総合高等学校 千葉県立八千代東高等学校 東京学館船橋高等学校 東京都立有徳高等学校 東京都立高等學校 東京都立工芸高等学校 成田高等学校 日々輝学園高等学校 三鷹市私立明星学園中学校
企画・デザイン・印刷	株式会社アートナウ 株式会社アクリア 永大産業株式会社 株式会社岡村製作所 株式会社オリエンタルランド 株式会社オズ 株式会社クリーチャーズ 株式会社グレープストーン コナミホールディングス株式会社 株式会社コンシェルト 株式会社サイバーエージェント 株式会社セントラルプロフィックス 株式会社大日本印刷 デザインインフェスタ有限会社 株式会社デサン 株式会社テレビ朝日クリエイト 株式会社電通 凸版印刷株式会社 株式会社パルス 日本ブレイディ株式会社 株式会社ベネッセコーポレーション 株式会社ボリフォニー・デジタル 株式会社マイナビ 株式会社モルフォ 株式会社HDR 株式会社Plan・Do・See 株式会社MaGO EXPERIENCE STUDIO NIJI	【専門学校等】 会津漆器技術後継者訓練校 青森県産業技術センター弘前地域研究所 石川県立輪島塗芸技術研修所 漆nara漆芸教育学院 沖縄県工芸技術支援センター 香川県漆芸研究所 金沢卯辰山工芸工房 富山ガラス造形研究所 武蔵野学芸専門学校 学校法人水野学園 山梨宝石美術専門学校 学校法人文化学園 【高等学校・中学校・小学校】 青山学院横浜英和中学高等学校
販売	株式会社九つ井 ギャラリーきくら主幹 株式会社そごう・西武 株式会社高島屋 株式会社東急ハンズ 株式会社中南海トレーディング 株式会社ミキモト	伊勢神宮 市貝町役場 警視庁 独立行政法人造幣局 新見市役所 企画政策課 社団法人日本クラフトデザイン協会 八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 永大産業株式会社 星野リゾート 株式会社フォルトゥーナ ユカイ工学株式会社 アトリエTOCOHA 株式会社 メーカーズ
その他		

卒業・修了作品の紹介

学生生活の集大成

卒業・修了制作は、学生たちが作家として、あるいは研究者として世界に踏み出す第一歩となります。

入学してから様々な経験を積み、技術の習得はもとより、新たな素材との出会いや創作活動の中で独自の表現を追求してきます。

工芸科での制作は、伝統の中で培われてきた技法を受け継ぎ、鍛え、素材を見据え、知識を持ち、時代の流れの中で独自の表現を生み出そうと切磋琢磨し試行錯誤を重ねていきます。

情熱と探究心を持ち、挑戦を続けた卒業・修了作品は、自己の創作活動の大きな区切りとなるだけでなく、工芸の世界に新しい可能性を提示し続けています。

彫
金
【修了作品】渡邊 佳奈子
そこはかとなく
彫金技法／真鍮・ステンレス
H36.5 × W30 × D29cm



陶
芸
【修了作品】石川 千春
跡形
手びねり／陶土
H80 × W30 × D28cm



漆
芸
【卒業作品】若月 美南
ささぐもの
乾漆／漆・麻布・顔料・金
H35 × W170 × D170cm



鍛
金
【修了作品】浦 由利恵
昼夜下がりの定例会（計6体）
絞り／銅・真鍮
H20-55 × W35-15 × D50-15cm



鍛
金
【修了作品】岩本 依留羽
痕跡
真土成型鋳造法・石膏埋没鋳造法／真鍮・アルミニウム
H110 × W190 × D50cm



染
織
【卒業作品】長谷川 博子
park
染め・織り／絹・羊毛・綿・ビニール
H220 × W500 × D500cm



ガラス
造形
【修了作品】濱田 敬史
21g in a bottle
ホットワーク・キルンキャスティング・コールドワーク／ガラス
H72 × W23 × D23cm

